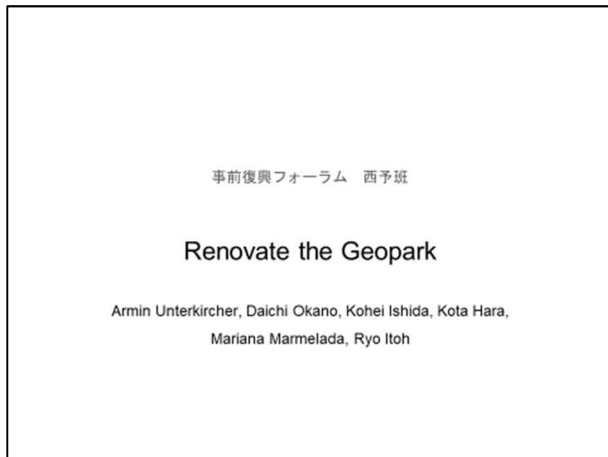


平成 30 年度 事前復興フォーラム

学生が考える宇和海沿岸域の 小さな事前復興プラン 発表

東京大学（西予班）

「Renovate the Geopark」



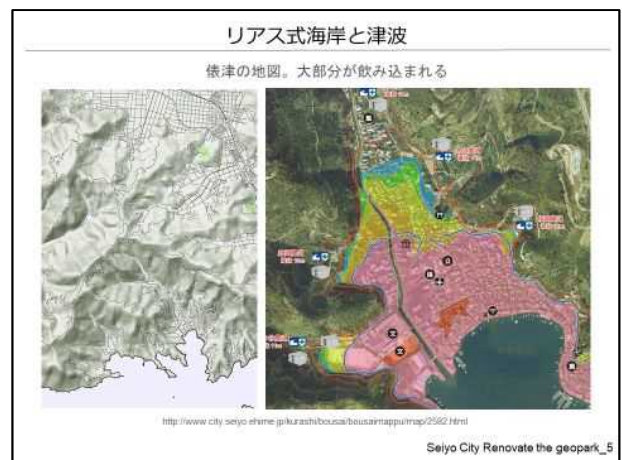
対象地区は西予市の中の特に沿岸部です。明浜（あけはま；俵津など）や宇和町を中心とした沿岸部を対象地区として計画を立てていきます。



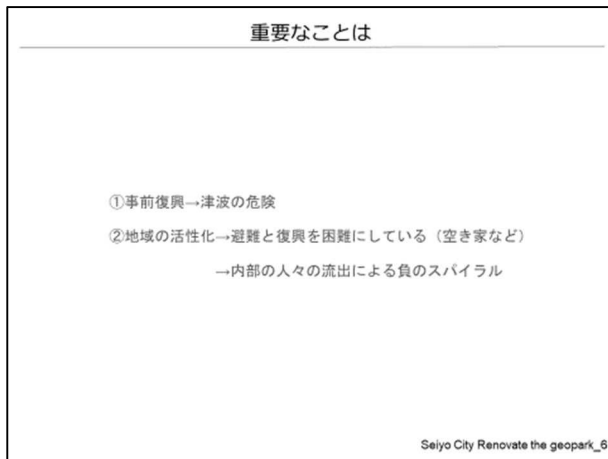
この地域はみかん産業を中心として栄えてきましたが、現状はスーパーが閉店してきたり、また中心地である宇和町に人口が流出してしまっています。また、学校の統廃合が行われていたり、衰退が進んでいる地域です。空き家も増え、これらは普段の生活からも既に表れているといえます。



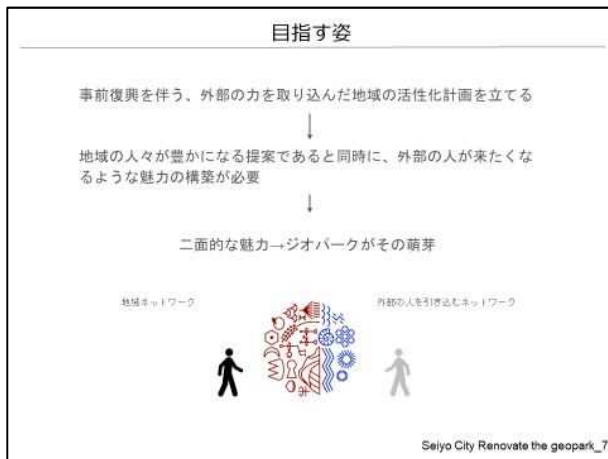
これは俵津ですが、住宅や公共施設の多くが津波に浸水被害の地域に一致しています。また、加えてこの地域はリアス式海岸で津波の被害を受けやすい地域です。それを踏まえて、この事前復興が必要ということになるんですけども、人口が減って高齢化が進み日々の生活でも困難な状況が増えてきているという中で、特に災害時では危険度が高まっていると言えます。しかし、災害時だけでなく日常時に対する提案をすることによって、日常時も災害時も安全でより良い避難を提案していきたいと思います。



事前復興によって津波の危険性を下げていくこと、そして外部人口を巻き込んで地域を活性化していき、避難を妨げる問題を解決していく。内部の人の流出が生じているという負のスパイラルをまず減らしていくことが第一だという風に我々は考えました。



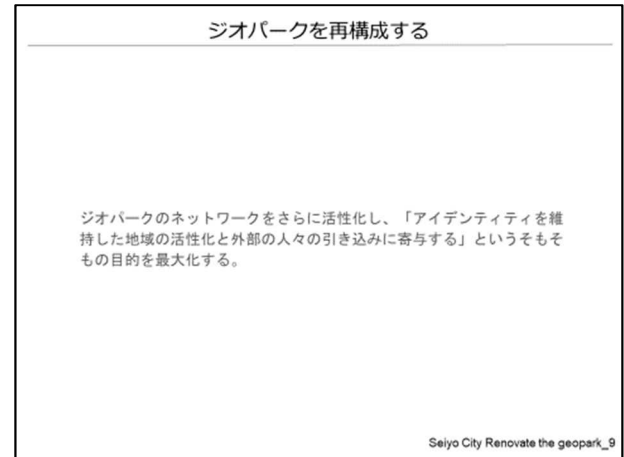
目指す姿としては、地域の人々にとっても外部の人々にとっても魅力的な提案であることが必要だと考えます。しかし、そういった取り組みの差というのは西予市でも実際ありまして、その中でジオパークがこれに使えるのではないかと考えました。



ジオパークは地域を結ぶネットワークの構築であると考えられます。これは、地域内における地域間のネットワークだけでなく、観光業を目的としたネットワークでもあります。

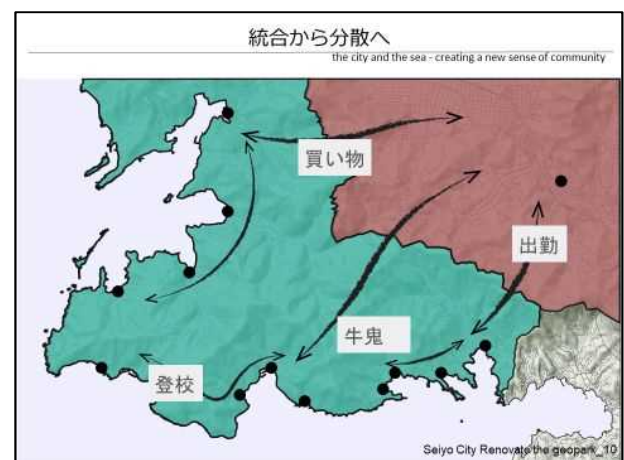


現状において、ジオパークはある種の、我々の目的を達成するためのストラクチャーとはなりえますが、かなり問題を抱えているネットワークでもあります。こうしたネットワークをリノベーションすることによって、事前復興を伴った地域創生と外部の引き込みを達成したいと考えています。



現状のネットワークの問題は中央への集中の結果として起こっているものでもあり、これは若者の流出や空き家の増加、学校の統廃合などを引き起こしている要因とも考えられます。で、こうした役割・生活の集中化のベクトルを反転させ、むしろ分散させようというのが、我々の提案の第一歩です。

この地域にはそれぞれの特徴がありまして、みかんの産業であったりとか、砂浜、ビーチを持っている場所があり、真珠が取れる地域であったりと、それぞれの色合いを生かしていきたいと考えています。それらの色合いを強めて、地域ごとに役割をもたせることによって、協力関係を強めて、ネットワークを再構築していく、という提案です。



ネットワークを構築することによって、それぞれの町が重要な役割をもっているということは、それぞ

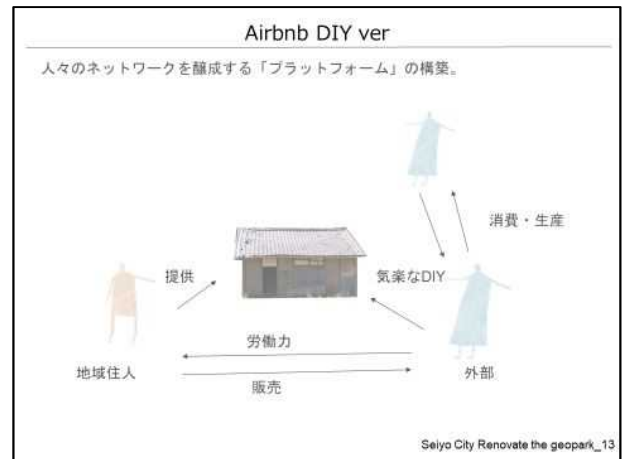
れの集落に対してお金をかけて復興する意味を生みだします。現時点では見捨てられてしまうかもしれない集落が、人々に必要とされているという状態を作りだし、それをネットワークとして互いに支えあうような地域となることで、町全体での復興を進めていくことができると考えます。



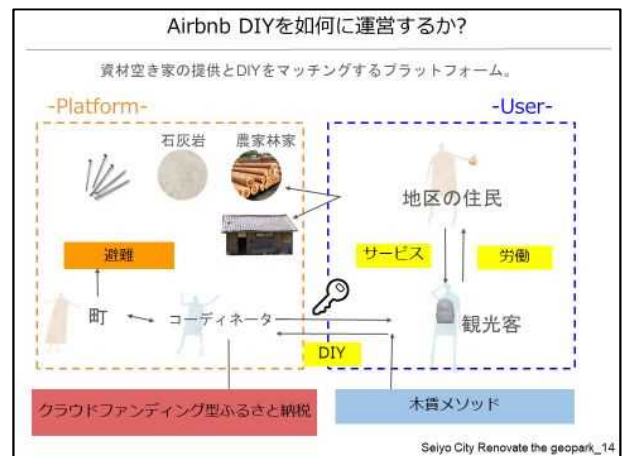
また、避難や復興の妨げとなりうるものとして空き家があります。そして地域の人口減少のために、廃校となった小学校もあります。それらをいかに使っていくかということも必要であると考えました。



そこで、DIY (Do It Yourself) をしながら、空家に宿泊することを可能とするプラットフォーム、DIY ver の Airbnb (エアビーアンドビー) というものを提案します。外部の人たちに移住してもらうことは難しいんですけども、観光で訪れる中での気軽な DIY をして、例えば空き家の修復などしてもらいたいなということを可能にするものです。



地域からは資材を提供し、観光客は DIY を行っその空き家に宿泊しながら、そこを修繕、より災害に強い土地にリフォームしていくものです。それをコーディネーターが管理しながら行うことで、避難路の確保に資するような周辺の空き家のリノベを行っていくというものです。



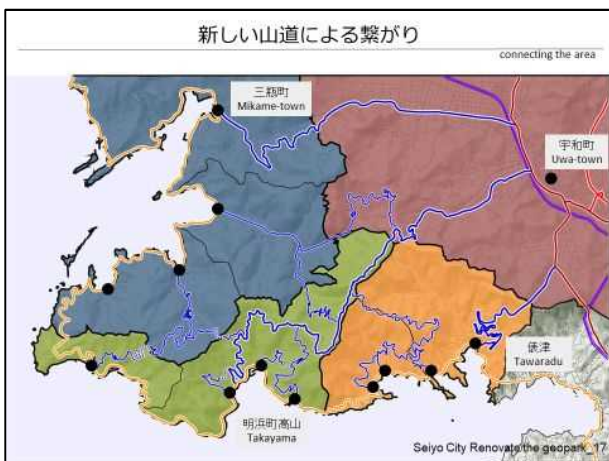
DIY で改修されていった家というのは、外から訪れる人もそうですし、地域の子供たちのプログラムが行われるということも考えられます。



このようにして観光客は、DIY をする拠点を持つことにはなりますけども、各地のネットワークを強めることで、ネットワークを通じ、外から来た人たちが地域全体の多様な魅力を楽しめるようになると思います。



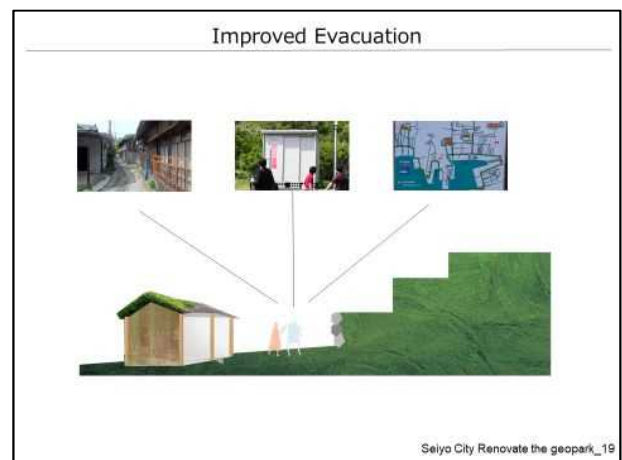
そこで我々は新たな道路システムの提案を1つ行います。宇和町と沿岸地域をつないでいくものです。この道路は、海岸沿いの道路とは別に、津波に対して安全な道路ネットワークを作り出すものです。道路を改良し、一部のつながっていないところは延長してネットワークとしていくというものです。路線バスに関しても便数が少なく、接続が悪いところもありますので、すべての提案というのも省きます。



このネットワークについて、地域の人々の生活、外部人口の引き込みといった横軸で提案を話してきましたが、この提案の縦軸、被災、復興までのタイムラインにおいて、ネットワークの機能と役割について話したいと思います。

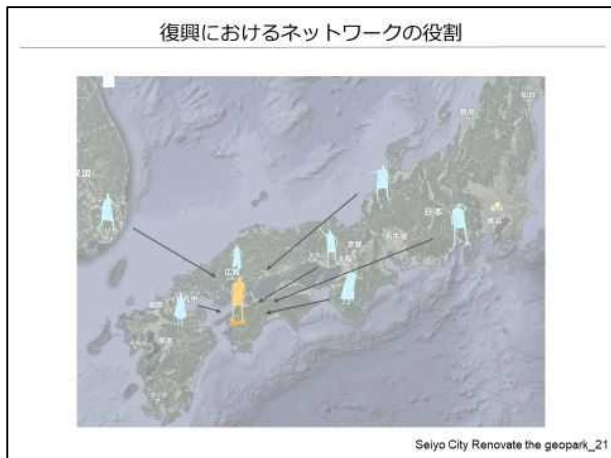


地域内で見てみますと、段々畑をきちんと整備して安全なものとするのが大事になっていくんですけども、こうした修繕も労働力も外部から来た人が少しずつその役割を行うことで整備ができると考えています。現状では空き家が倒壊し、避難路、道を防いでしまう可能性が高いですが、それも徐々に改修を通じて補強していくことで改善できると考えています。また、現状では地域の人々はずっと暮らしてきていて、このような実は危険な場所でもそのまま暮らしていますが、若い人を呼んでくるうえで皆の安全性を見直すということでも、それらは結果的に災害時にも役に立つものであると考えます。人的ネットワークが構築されていることで外部の人たちとも協力関係が築けるとともに、外部の滞在者も含めた避難計画を立てていくことができるのではないかと考えます。また、足腰の悪い高齢者もいらっしゃいますが、そうした方を助ける若い人材として、外部の人々を活用することもできると考えます。



最後の段階として、復興のプロセスについて説明します。このようにして地域をよく知っている地域外の人たちが生まれ、またこの地域の災害の状況を予

想できる人たちを増やしていくことを通じて、復興の際には、こういった人々が駆け付けることによって、復興をよりスピーディに進めることができます。



外部の人々が入り込むことで、むしろ前より豊かにリノベーションができるのではないかと考えます。



このような拠点の種をまいていき、最初は DIY ver Anbnb の構造なんですけれども、最初はファンドベースで運営を行い、徐々に安定していく中でビジネスとしても成り立っていくようにしていきたいと思っています。



具体的な、まず最初の拠点としては明浜の高山地区を考えています。ここは道路ネットワークとしても宇和町と接続しており、宇和町を中心として、ここは適切でないかと考えて選定いたしました。



ここで、高山地区では、このの沿岸部から高台に対して逃げるメインの道路を中心に設けています。ここを重要な道として避難を行うということです。その行き先として、ジオパークを生かしたリノベーションの拠点でもあり、避難の拠点ともなる施設を提案しています。その高台を横につなぐ導線を作っていくことで、高台への道と、どこが津波から逃げられる高台の地域なのかというのを印象付けるための道を整備していくということになっています。



最後に、具体的に各施設のデザインについても、先ほどのオレンジの部分にこのような施設の提案を行いました。これは、カフェ、情報提供、コミュニティ、避難所となる施設の外觀です。



簡単ですが、カフェであつたりコミュニティの活動に使えればなというようなスペース、被災時には避難所としても機能できるようなスペースを復興し、またジオパークの情報提供も行えるようなものとしてデザインをしました。



以上です。